

週報

【2021/11 第2例会】

例会日：毎週金曜日
 例会場：碧海信用金庫本店3F
 安城市御幸本町15-1
 TEL：0566-75-8866
 FAX：0566-74-5678
 Email：anjo-rc19580206@katch.ne.jp
 HP：http://www.anjo-rc.org

第3083回例会 夜間例会

2021年11月19日(金) 18:30～19:30

司会者：荻須 篤君・野田 敏男君 ソング：「四つのテスト」

ニコボックス委員会：深津 吉彦君

ゲスト及びビジター：

佐野彰彦様 地区ロータリー財団 資金推進委員会 委員長（刈谷RC）

加藤 弘様 功労会員

2021-22年度：RIテーマ

「SERVE TO CHANGE LIVES 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」

安城ロータリークラブ会長方針：

「アットホーム ロータリー！～奉仕を通してロータリーを楽しもう～」

- 会長：石川 義典
- 幹事：辻 隆士
- クラブ会報：山口雄史・兵藤幸男・竹内通裕
- 創立日：S33年1月10日
- RI加盟認証日：S33年2月6日



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

■ 会長挨拶

石川 義典会長



11/15
 安城ライオンズ60周年記念チャリティ
 ゴルフ大会



■ 出席報告

永井 慎悟君

会員	55名
出席義務者	45名
出席	32名
欠席	17名
出席免除者の出席	
出席率	61.90%

■ 幹事報告

辻 隆士幹事

1. 本日例会終了後の二次会はうり食堂(韓国料理)です。
2. 11/26(金)定款により休会です。
3. 12/3(金)は総会です。本日総会のご案内を配布いたしましたので、出欠報告をお願いします。
 また欠席の方は、必ず委任状の提出をお願いいたします。
4. 12/18(土)会員家族親睦例会の登録料をお願いします。
5. 1/7(金)新年夜間例会は鯛常分店 18:30～行います。

◆ 卓話

担当：赤木 禎行君

テーマ「私の趣味『移動を楽しむ』」

本日は卓話の機会を与えていただき、ありがとうございます。
 いつもは、適当に話をするのですが、WORDで原稿を提出する必要があるため、今日は原稿を読みつつ話をして参ります。
 昨年7月31日、歴史と伝統ある安城ロータリークラブに入会させていただいた際に、「私の趣味は妻と城や寺社を巡ること」と申し上げました。
 それを覚えていただいていたのか、7月12日の例会で石川会長が卓話をされる前に、私に対して「先にお城の話をするようになってごめんね」と気を使って声をかけてくださいました。この1年間、ほとんどお話をする機会もなかったのに、私が1年前に「城」と言ったのを覚えていただいたことに感激しました。ということで、私の趣味の話は石川会長がされてしまったので終わり…というわけにもいかず、お時間をいただいております。



私の趣味というお題でしたので、この機会に、自分の趣味である旅について、具体的に何だろうと考えてみました。
 旅をするといっても、目的地である「城」や「寺社」自体を深く知りたいという意識が強いわけではなさそうです。だって、城主が誰で、築城が何年といったことは、さっぱりわかりません。
 結局、どこか目的地に行って、そこで楽しむというだけではなく、移動している途中、さらに旅を計画すること「も」楽しむというのが、私の趣味として正しい認識じゃないかなあということに落ち着きました。
 ただ、今日のお話は、皆さんのように、ためになるようなことはなく、旅の話題はほとんど出て参りません。表題の下に(導入編)と、わざわざ書いたように、旅に行けるようになるまでの自分語り終始していますし、この後、笑いの要素など皆無で、30分の時間を持たせることができるか不安ではありますが、あーだこーだと3,000時間ほどかけて内容を考えて参りましたので、よろしくお願ひします。
 って、ここが唯一の笑いどころですよ。…っと滑りましたね。失礼しました。

では、まず、2ページほど写真を紹介いたします。

これは、たしか石川会長もご紹介されていた姫路城です。平成の改修が終わっており、美しい姿を見ることができました。この時は岡山と兵庫を回りまして、武田城跡にも寄ってきました。それぞれ、ぜひとも行きたいと思っていましたので、良い機会でした。

彦根城とひこにゃんの遠景です。古い写真なんですけど、これは、ほとんど写真を撮らないという私の行動故でして、それなりに他の城もまわってはいるんですが、写真が見当たりませんでした。お見せできなくて残念です。また、「お城」が趣味っぽく話していたのに、「お城」の良さについて語るだけの知識もなく、ただ行った証拠の写真をお見せするだけとなり、恐縮です。

さて、ここからが本題なんですけど、

私は、実は、20才過ぎまでは乗り物酔いで悩まされていました。

学生時代、観光バスに乗る際は、一番前の席が定位置でしたし、新幹線でも気持ち悪くなり、修学旅行の集合写真では疲れ切って生気のない顔で写っています。

高校では、野球部の遠征で長野に行ったのですが、振り子電車ということもあり、座席とトイレの往復でした。

いや、汚い話ですいません。

飛行機は小学生の頃に一度だけ、名古屋ー鹿児島への往復で乗りましたが、離着陸の際に鬼太郎袋を抱えていたのをかすかに覚えています。だけど、不思議なことにフェリーは大丈夫だったんですね。

ということもあり、私にとって旅というのは苦行だったというのが若かりし頃の話です。

では、今はどうなのか？ということですが、

そもそも私が中央精機に入社する決め手となったのは、遠隔地への赴任がないだろうということでした。もちろん、当時の社長であった石原勝成さんの素晴らしい人柄に惹かれたということもありますが…。工場は安城と豊田にしかありませんし、今はなくなってしまいましたが、その当時は東京にある営業所に1名のみが駐在しているだけ。まあ、まかり間違っても遠くに行くことはないだろうと思ったわけです。

ところが、入社してみたら、台湾準備室やら北米準備室などというものができていて、海外に工場を作る準備をしているというではありませんか。私の配属も海外事業関連になってしまい、大きな誤算でありました。そんな担当になってしまったので、国内出張をすっ飛ばして、海外出張が頻繁にあり、アジア諸国、特にマレーシアには頻繁に出かけていました。そして飛行機に乗る回数が増えるたびに、飛行機酔いだけは軽減していったのです。

ただ、乗り物酔いだけでなく、高所恐怖症という課題も抱えておりまして、飛行機に乗る際は必ず通路側を選択します。

さて、このように飛行機は少し克服したわけですが、まだ船以外の乗り物には弱い状態が続いていました。特にバスや電車などは、かなりの覚悟をして乗り込むこととなります。まあ、少しずつ改善していこうなあという思いでいたわけですが、乗り物酔い克服のための転機となったのが、タイへの赴任でした。

海外出張はそれなりにしていたのですが、まさか海外に赴任になるとは思ってもおらず、赴任の打診を受けた時は青天の霹靂でありました。

当時、長女が3歳で小児喘息をもっていました。上司に言わせると「バンコクは空気がきれいでも喘息にも良いぞ」ということだったのですが、よくよく調べてみたら、バンコクの空気汚染は世界最悪レベルでありましたので、面倒なく行かせたいためのウソだったのか、その人が知らなかったのかはわかりませんが、後の祭りでした。ちなみに次女はタイ赴任中の2000年に生まれています。さらに、ちなみに家を新築したのが1994年でしたから、ほとんど自分の家に住まないうちにタイに行ってしまったこととなります。当社では、家や車を新調すると海外赴任するというジンクスがあるんです。

ちょっと参考情報で、私の赴任期間にあった出来事を少しだけ。

1995年にタイに赴任した際は、タイは好景気で車の生産台数が60万台、10年後には4倍の250万台まで伸びるという大きな成長が期待されている輝かしい時期でした。ところが1996年に入って、アジア通貨危機が始まり、一気に景気が冷え込み、1997年にはタイの車生産台数は一気に4分の1の14万台まで落ち込みました。会社は週3日稼働になり、作るものがないので、営業である私はタイの田舎やインドネシア・マレーシアにホールを持って売り歩いていた。タイの田舎はタイ語しか通じなくて、身振り手振りを駆使したのですが、こちらの意図を伝えるのには苦勞をしました。飲み屋さんでタイ語をしゃべっても相手に意味は伝わりますが、田舎では正確なタイ語の発音でなければ全く伝わらないんですね。私が帰国する2003年までは、ほんとに緩やかにしか景気が回復しなかったのが、赴任当初の華やかなりしバンコク生活は一瞬のことでした。華やかなりしバンコク生活はどんなものかって？それは、平日は夜中の2時まで飲んで歌い、休日はゴルフに行き、また夜に飲みに行くわけですから、よく体を壊さなかったと思います。その無理がたたったのか、今では、ほとんどアルコールの摂取ができません。

ちなみにロータリーでもゴルフがお好きな方が多いと思いますが、皆さんはどれくらいプレーされますか？私は平均で年間60ラウンドくらいでしたが、私の知り合いで年間180ラウンドという猛者がいますし、1日にすべて違うゴルフ場で5ラウンド回った方もいます。もちろん4人ですよ。私は1日に3ラウンドが最高です。今では腰が悪く、ゴルフ自体ができない状態ですが。

2回目の赴任の際は、赴任した直後の3月11日に東日本大震災が発生。ちょうどその時、宮城県にある中央精機東北の社長がタイに来ており、地震の一報が入った後、一緒にテレビのニュースを呆然としながら見た覚えがあります。実は、その夜の便で日本に戻り、茨城にいる大学生の娘に会いに行く予定をしていました。中央精機東北の社長も同様に名古屋に戻る予定でありましたので、一緒に空港まで行きました。名古屋行きの便は早々に出発したのですが、私の成田行きはいつまでたっても出発せず、ようやくアナウンスがあったのが出発予定時刻の4時間後で、何とか出発してくれました。成田に着いたら、到着している便は、私の乗ってきた飛行機ともう一便だけ。電車はすべて止まっているし、バスも運行していない。途方に暮れていた時に、特別バスで電車が運航している駅、確か佐倉駅だったと思いますが、送っていただけのことだったので、空港に足止めされずに助かりました。その後、千葉駅まで行き、レンタカーを借りて(その時は3か所回りましたが1台しか残っていません)つくばまで何とか行き着きましたが、娘のアパートの近くのセブンイレブンは正面のガラスが粉々に割れており、揺れの強さを感じました。さらに、その年の7月～11月はタイの大洪水があり、東日本大震災と合わせて、車の生産に大きな影響がありました。かくのごとく、私の引きはけっこう強いんです…。

ちょっとここでタイ王国の概況について話をします。といっても、ご存じの方が多くはすかね。タイ語でタイ王国は「プラテート・タイ」。「プラテート」は国の意味で、日本であれば「プラテート・イブン」となります。タイ語について話をすると長くなってしまいますので別の機会にしたいと思います。首都はバンコクですが、タイ語名は「クルンテープ・マハナコーン」です。天使の都と訳されますが、でも、正式名称は、ものすごく長く、世界一長い名前と言われています。

参考のさらに豆知識ですが、バンコクの正式名称です。クイズ番組などで紹介されることもあるので、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、世界で一番長い都市名と言われています。タイ語で9単語、カタカナで書くと120文字にもなります。

日本語訳を見ていただくと、まるで日本の神社で神様に奏上する祝詞のように、良い意味を持つ形容詞がこれでもかというほど使われています。ちなみに行政用語としての正式名称は「クルンテープ・マハナコーン」ですので、ご安心ください。って、何を？

ちなみに、安城ロータリーの会員の方々に、昭和の時代に小学生だった方々はけっこう多いと思いますが、ミャンマー～ラオス～カンボジア～ベトナムを流れるメコン川、タイを流れるメナム川を対にして覚えていた方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

ところが、現在ではメナム川ではなくチャオプラヤー川と呼ばれております。実は、タイ語ではメナムは「川」という意味であり、タイ人はメナム・チャオプラヤーと呼んでおり、それを聞いた側が誤解してメナム川となつたらしいです。日本の地図帳では、昭和60年くらいまでメナム川の表記がされているようです。

どうも横道に逸れすぎたようですので、元に戻ります。

人口は6900万人です。日本が1億2千6百万人くらいですから、人口は日本の半分強。バンコクの人口は約600万人ですが、一説には800万人～1000万人ともいわれています。バンコク圏としてみると、1600万人という数字もありますので、タイの方が都市への人口集中は激しいようです。気候は熱帯性気候でして、季節は4季があり、「少し暑い」、「暑い」、「むちゃくちゃ暑い」、「雨季」になります。熱帯性気候ですから雨季には毎日スコールがやってきて、激しい雨と雷が1時間ほど続き、さっと晴れます。年間平均気温は29度ですが、2020年の愛知県の年平均気温が17度ですので、日本の方が過ごしやすいはず。とはいえ、真夏比較であれば、日本の暑さも相当なものですし、蒸し暑さによる不快感を合わせると日本の真夏の方が辛いかも。

宗教は敬虔な仏教徒で上座部仏教ですので、出家して悟りを開いた者のみが救われるものです。一般大衆は、良い来世を迎えるために、お坊様に寄進することで徳を積みます。お坊様は寄進されたものをいただくことで生活をしています。Win-Winですね。イスラム教を信仰している方も一定数いらっしゃって、ゴルフをしていると近くのモスクからお祈りの声が聞こえてきたりします。

さて、やっと本筋に戻ってまいりました。ちょっと皆さんも迷子になっていると思いますので、これまでを要約すると、「小さい頃は乗り物酔いがひどく、会社に入って思わぬことに海外事業関連の担当になったため、それなりに海外に行くことも多く、飛行機には慣れてきた」、というものでした。

その上で、タイ赴任によって乗り物酔いを克服できた理由ですが、3つあると思っています。

まず一つ目は渋滞がひどく、どこに行くにも時間がかかったこと。赴任当初は高架鉄道(BTS=Bangkok Sky Train)や地下鉄がなく、移動はもっぱら車とバスでした。高速道路の路線も少なく、好景気であったことから、いつも大渋滞でした。スコールの後ともなれば、ほんの100m進むのに2時間かかるなんていうこともザラというか、タイに初めて行った日がまさにそうでした、目の前にホテルが見えてからが長かったです。ある日、日本から社長がタイに出張してきて夜に会食をすることになりました。その社長は昼に到着してバンコクのホテルから会食の場所に直行です。我々は、バンコク郊外の会社から定時になると同時に会食の場所に急ぎました。当時は駐在員一人一人に車が支給され運転手さん付きでしたから、7名の駐在員がそれぞれ同じ時間に出発しました。運転手さんには運転手さんとしてのプライドがありますから、ラジオの渋滞情報を聞きながら、皆がそれぞれのルートを選択して、会食場所に着いたのは、見事にバラバラの時間で、全員が揃うまで2時間かかったというお話です。

二つ目はお客様が遠かったこと。私は営業とデリバリーを担当していたので、頻繁にお客様のところに行っていたのですが、お客様の立地がバラバラで、一日中、車に乗っていることも間々ありました。そのうちに車酔いをしなくなり、後部座席に座っているだけといえども、眠ってばかりというわけにもいかず、ただただ暇で、タイ語会話の研鑽に努めたり、車の中で新聞や本を読むことで、さらに車に強くなっていました。

お客様の立地は、私が最初に赴任した頃とは、若干変わってしまっていますが、こんな具合です。例えば、ホンダに行きたいと思えば、車に乗り込んで、運転手さんに「パイ・ホンダ・アユッタヤ」とお願いするわけです。そうすると、運転手さんが「カッパ」と大きな声で返事をしてくれて出発です。

大きな赤丸が会社のあった場所ですので、ホンダに行くには、バンコクを越えて行くことになります。渋滞を覚悟しつつ1時間～1時間半のドライブとなります。ホンダはまだ一部高速道路ができていたので良かったのですが、三菱やマツダは2時間以上、右上のいすゞやトヨタとなると2時間半～3時間かけて行くことになります。当然、一日に2か所(三菱→ホンダ)となると、お客様との商談が計1時間、車に乗っているのは8時間ということになります。きれいに舗装された道ばかりではないので、最初の頃はホントに大変でした。徐々に高速道路が整備されていって、時間は短縮されていきましたけど。

日本にいる時と比べて、タイにいると、海外に行くハードルが低いと感じます。バンコクの北のドンムアン空港(ただし、2006年にはスワンナプーム空港ができて、メインの国際空港としては席を譲ることになります)から東南アジアの国に数多くの便が出ており、簡単に行くことができます。例えば、シンガポールであれば1日に6～7便が出ていて、3時間程度で到着しますので、これはもう、国内線の感覚です。タイにいる約10年間で、プーケットやサムイ、クラビー等のタイ国内のリゾート地はもちろんのこと、東南アジア諸国やモルジブなど、長期連休を利用してあちこちに行きました。長期連休といっても3～4日ですけれどね。当時のタイの会社のカレンダーでは275日の稼働日数で、日本の中央精機は248日でした。1か月余分に働いていたので、ボーナスを余分にくれ！と言ったのですが、「郷に入れば郷に従え」の一言で撃沈です。子供が生まれてからは、紙おむつや粉ミルクの仕入れのためにシンガポールによく出かけました。今ではそんなことはないのですが、赴任した頃はバンコクのデパートには日本の赤ちゃん用品がほとんどなかったんですね。

旅行は飛行機だけでなく、乗用車やバス、ヘリコプター、船など、さまざまな交通手段で移動することになります。

ようやく、乗り物酔いを克服できたわけですが、苦難の時期を超えて、私にとっては旅＝苦しいものであったのが、いつの間にか乗り物で酔うこともなくなり、旅を楽しむことができるようになりました。ということでもありますので、私の卓話の題は「移動が楽しめるようになるまで」というのが正確でした。

旅の要素を考えてみると、こんな風に6つに分類できるのかなあと勝手に考えました。特に偉い方の論文から引用したということはありません。これまで、お話してきたように、旅の楽しみの中でも、

①移動が楽しめるようになった。これまで、吐き気をこらえて、目をつむって耐えていたのが車窓の景色を見たり、旅行雑誌で情報を仕入れたりできるようになった。

②旅自体を楽しめるようになったので、計画段階でも楽しくなってきました。

③乗り物酔いをする、気持ち悪くて胃が重い感じになって、食べ物を食べることが苦痛になるのですが、これも乗り物酔いがなくなって問題なくなりました。

さて、ここから少し、コロナ下でも出かけて行った場所をご紹介します。

まず、滝シリーズです。

これは、新城にある百間滝です。コロナ下で人が密集しないところを考えた時に、山奥の滝なんて良いかなあと思い、ぶらっと行ってみました。日本最古で最大で最長の巨大断層地帯「中央構造線」の真上に位置していて、ゼロ磁場になるパワースポットという言葉に惹かれました。ゼロ磁場なんです、その理由は、巨大断層のフォッサマグナに分断され、両側の地質の全く異なる地層がぶつかり合うからとのこと。百間滝に行くには、狭く急な道を降りていく必要があります、時にはロッククライミングのごとくロープに体を預けて降りていくようなところがあります。行かれる方はご注意ください。と言っても、遠回りになりますが、緩やかな階段で行くルートもあり、帰りはロープを伝って登るのは断念して、ゆっくりと戻りました。

東栄町にある鳶の淵です。大千瀬川にかかる、幅約70m、落差約10mの大滝です。有名な景勝地のようで、その雄大な様から「奥三河のナイアガラ」と名づけられています。うーん、写真からは雄大さは感じられませんか？

「とうえい温泉」の裏手にある展望台からは、その姿を間近に見ることができますが、川の反対側から河原まで降りることができました。ただ、結構な長さの階段を上り下りすることになります。運動不足で腰痛持ちには辛かったです。

中津川の夕森公園にあり、白龍伝説があるパワースポット、竜神の滝です。訪れた人それぞれにパワーを送る神秘の滝としても知られています。右下の写真は、樹齢100年を超える天然木で、大きな石の上に根を張りバランスを保ちながら成長しています。その姿から「ド根性もみじ」と名付けられています。

新城作手地区にある鳴沢の滝です。高さは約15mほどですが、水量は豊富で、木々の彩りも鮮やかな、界限随一の名瀑です。この滝は滝つぼのある河原まで降りる道が緩やかでしたので、行かれる方は、そこまで気合を入れる必要はありません。河原でしっかりとマイナスイオンを浴びてきました。

いつか行きたいと思っていた桜で有名な伊那にある高遠城址公園です。桜祭りは中止でしたが、今年なら人出が少ないだろうと行ってきました。

芝桜の季節になったので、ドライブがてら行ったものです。他の場所もそうなのですが、目的地に着くまでの休憩や道の駅での買い物、車窓の景色、時には温泉などでゆっくりするのも大いなる楽しみです。

とりとめもない話になってしまいましたが、以上になります。

ご清聴ありがとうございました。